蚕糸・地域特産部門

出品財　産物（茶）

農事組合法人　グリーンティ土山（つちやま）
（代表　藤村（ふじむら）　春樹（はるき）　氏）

滋賀県甲賀市（こうかし）

１．地域の概要

甲賀市は、平成 16 年に５町が合併し誕生した。農事組合法人グリーンティ土山がある土山町は、甲賀市の東端部にあり鈴鹿山脈を挟んで三重県と接し、約 210ha で茶栽培が行われている。年平均気温が 13.0℃と茶産地としては比較的冷涼ではあるが、１日の寒暖差が大きく適切な降水量があり、良質茶栽培には適した地域である。

２．受賞者の取組の経過と経営の現況

グリーンティ土山は、平成２年に組合員 10 名、経営面積 17ha で、栽培管理から製茶、出荷・販売に至るまでの完全協業制で経営をスタートした。以後、製茶ラインの整備や大型機械の導入を進め、平成 26 年度時点では、経営規模 31ha にまで拡大している。また、当初の組合員が高齢化する中で、非農家出身の県立農業大学校卒業生を雇用することにより、組織の維持発展を図っている。

３．受賞者の特色

（１）茶樹の植え替えによる品質の向上と作期分散

当法人では積極的に植え替えを進めており、平成７年には「やぶきた」の栽培面積が 94.6%であったものを、平成 26 年には 71.9%へと低下させた。植え替えに当たっては、うね毎に暗渠（地下に埋設した排水路）を設置するとともに、かぶせ栽培での評価が高い「おくみどり」等の導入を進めている。さらに、植え替えによる優良品種の導入については収穫時期の早晩性にも配慮し、製茶工場の生葉処理能力にあった収穫ができるよう調整している。

（２）施肥方法の改善による環境負荷低減

当法人では肥効調節型肥料（少しずつ溶け出る肥料）の利用に加え、化成肥料を施用する際には硝酸化成抑制剤を用いることで茶樹への吸収効率を高め、環境負荷の低減につなげている。さらに、温室効果ガスである一酸化二窒素の発生を大幅に抑制できる樹冠下施肥法を導入している。

（３）実需者ニーズに対応した茶づくり

実需者のニーズをいち早く捉え、輸出茶や食品加工用原料茶等の栽培に取り組むとともに、平成 27 年には JGAP 認証を取得した。これらの取組が県内外の茶商から高く評価され、取引先の増加・安定受注につながっている。

（４）男女共同参画

構成員９名の内、理事１名、組合員２名が女性であり、栽培管理作業に加え、農業外の職種経験を活かし、法人ロゴマークのデザインやホームページ等の管理、小売り向けの販売等も担当している。また、家庭での役割に配慮し、繁忙期であっても子供の学校行事への参加を促し、日常から確実に定時帰宅できるようにしている。

４．普及性と今後の発展方向

当法人は、非農家出身者が参画しやすい完全協業制であり、全国的にもモデルとなる経営体である。また、当法人が取り組んでいる肥効調節型肥料、硝酸化成抑制剤の利用や樹冠下施肥は、環境保全型農業の優良事例となっている。加えて、当法人が JGAP の認証を取得して新たな需要を得たことと、当法人から地域への提案もあり、認証取得を希望する農家が数件現れ、産地全体に関心が広がっている。

今後は、組織の適正規模を考慮しつつ、若手組合員を雇用して、これまで培ってきたかぶせ茶栽培の技術を活かして、抹茶の原料となるてん茶栽培用に経営面積の拡大を図り、てん茶製造工場を建設したいと考えている。